

平成9年のワカサギの成長・成熟について

○平成9年のワカサギの成長は8年並に推移

昨年（平成9年）のワカサギの生育状態について報告します。

図1に過去3年間（平成7～9年）の霞ヶ浦及び北浦におけるワカサギの体重の推移を示しました。

まず霞ヶ浦についてみると、トロール解禁日（9年は7月22日）では9年は2.3gと8年より小型でしたが、9月から10月にかけては他の年より大きく、ワカサギの生育が良かったことがわかります。11～12月は一転して8年より小さく、トロール最終日の12月9日では11.8gでした。

一方北浦では、解禁日の体重は1.7gと小さく、過去5年間でも最小でした。その後は図からわかるように8年並に推移しました。

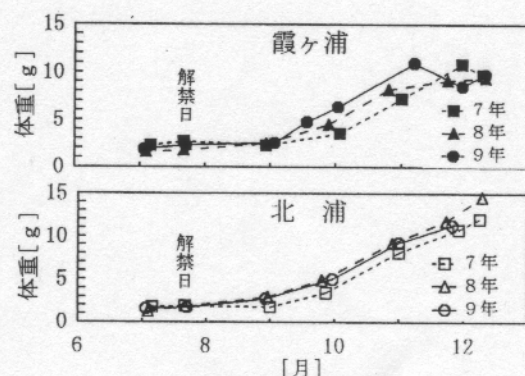


図1 ワカサギ体重の推移（年別）

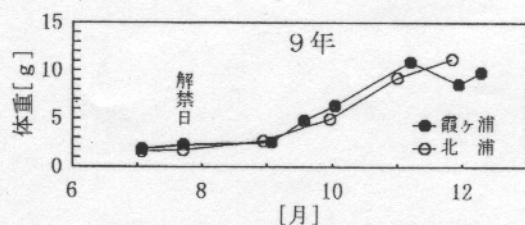


図2 ワカサギ体重の推移（湖沼別）

次に、9年のワカサギの体重の推移を霞ヶ浦北浦別に示したものが図2です。この図から、11月末を除いて、霞ヶ浦の方が北浦のものよりやや大きかったのがわかります。

続いて、ワカサギの肥満度（太り具合を表す指数で、同じ魚で似たような生育段階同士を比較した場合、この値が大きいほど太っていることを示します。）について霞ヶ浦北浦別に示したものが図3です。この図から、肥満度では9年の8月以降北浦の方が霞ヶ浦より小さく、やせていたことを示しています。

同様に8年の肥満度も同図に示しました。この図をみると、両湖とも解禁日から12月に向けて上昇するという同じ傾向を示しましたが、9年同様北浦の方が霞ヶ浦に比べ肥満度は小さく、やせていたのがわかります。

この8、9年の北浦のワカサギが霞ヶ浦のものよりやせていた原因としては、両湖に共通する要因（水温など）ではなく霞ヶ浦と北浦個別に作用するものが原因として考えられます。かわら版No. 150では、ここ2～3年北浦の水がすんでいる（クロロフィルa量が少ない。）ことを報告しましたが、ワカサギを取り巻く環境（餌環境など）の違いがこのような結果になったものと考えられます。

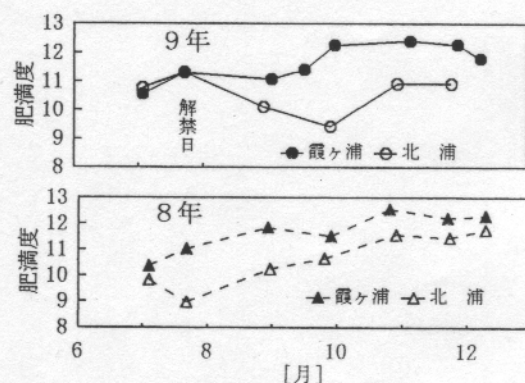


図3 ワカサギ肥満度の推移（湖沼別）

○ワカサギの成熟は遅れ気味

また、試験場ではワカサギの成熟度についても調査しています。

平成9年11月からの霞ヶ浦におけるワカサギ雌魚の成熟度指数（成熟具合を表す指数で、この値が高いほど熟していることを示します。ワカサギでは約25%を越えると産卵可能となります。）の推移を平成8年及び昭和54年のものと比較したのが図4です。この図をみると9年のワカサギは他の年に比べて成熟度指数が小さく、成熟が若干遅れ気味なのわかります。

先にも述べましたが、9年の霞ヶ浦のワカサギの魚体重は8年と比較して11月末を除き大きい値を示しましたが、成熟度ではこのように小さく推移しました。

この原因としては、水温、日照時間及びワカサギの成長の速さなどが考えられますが、今後さらに調査していきたいと思ひます。

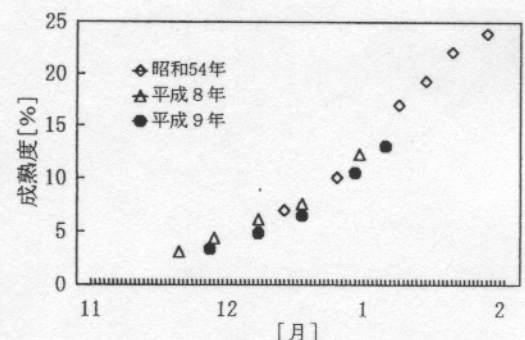


図4 ワカサギ雌魚成熟度の推移